

＝ 福祉・保育に関する年表(1937年～2011年)(簡易版)＝

**やまだの保育**

掲載日:2011年11月7日

作成日:2011年11月7日

<出典・引用:「2011年 厚生労働白書」・「2011年 子ども・子育て白書」>

◇詳細年表は、2012年1月からの「2012年保育士試験受験対策」の一環として掲載する予定◇

年	時代背景	施策等
1937		・保健所法
1938	・厚生省創設	・国民健康保険法
1939		・職員健康保険法 ・船員保険法
1940		
1941	・太平洋戦争	・労働者年金保険法
1942		
1943		
1944		・厚生年金保険法
1945	・終戦	・引揚者対策
1946	・日本国憲法公布	・旧生活保護法 ・労働関係調整法
1947	・労働省創設 ・第1次ベビーブーム	・新保健所法 ・食品衛生法 ・児童福祉法 ・労働基準法 ・労働者災害補償保険法 ・職業安定法 ・失業保険法
1948		・予防接種法 ・医療法 ・医師法 ・歯科医師法 ・保健婦助産婦看護婦法
1949		・身体障害者福祉法 ・労働組合法 ・緊急失業対策法
1950	・朝鮮戦争(特需ブーム)	・精神衛生法 ・新生活保護法

<http://www.yamada-no-hoiku.com>

**やまだの保育**

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

1951		<ul style="list-style-type: none"> <li>・結核予防法</li> <li>・社会福祉事業法</li> <li>・児童憲章</li> </ul>
1952	・講和条約	・戦傷病者戦没者遺族等援護法
1953		
1954		<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃法</li> <li>・厚生年金保険法改正(定額部分の導入支給開始年齢 60 歳への引き上げ)</li> </ul>
1955	・神武景気	
1956		
1957		・水道法
1958		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国保法改正(国民皆保険)</li> <li>・職業訓練法</li> </ul>
1959	・岩戸景気	・国民年金法(国民皆年金)
1960	・所得倍増計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神薄弱者福祉法</li> <li>・薬事法</li> </ul>
1961		・児童扶養手当法
1962		
1963		・老人福祉法
1964	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京オリンピック</li> <li>・いざなぎ景気</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子福祉法</li> <li>・特別児童扶養手当等法</li> </ul>
1965		<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚生年金保険法改正(1万円年金、厚生年金基金)</li> <li>・母子保健法</li> <li>・精神衛生法改正(通院医療費の公費負担)</li> </ul>
1966		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国保法改正(7割給付実現)</li> <li>・雇用対策法</li> </ul>
1967		<ul style="list-style-type: none"> <li>・公害対策基本法</li> <li>・第1次雇用対策基本計画</li> </ul>
1968		
1969		・厚生年金保険法改正(2万円年金)
1970	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化率 7%を超える(高齢化社会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物処理法</li> <li>・社会福祉施設緊急整備5か年計画</li> <li>・家内労働法</li> </ul>
1971	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境庁設置</li> <li>・ドル・ショック</li> <li>・第2次ベビーブーム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童手当法</li> <li>・高齢者等雇用安定法</li> </ul>
1972	・札幌オリンピック	

1973	・福祉元年 ・オイル・ショック	・老人福祉法改正(老人医療費無料化) ・健保法改正(家族7割給付、高額療養費) ・年金制度改正(5万円年金、物価スライドの導入)
1974		・雇用保険法
1975	・国際婦人年	
1976		
1977		・雇用保険法改正(雇用安定事業創設)
1978		・国民健康づくり対策
1979	・国際児童年	・薬事法改正(新薬承認の厳格化、副作用報告、再評価、GMP等の法制化) ・医薬品副作用被害救済基金法
1980	・ベビーホテル問題 ・第二臨調(財政再建)	
1981	・国際障害者年 ・日米貿易摩擦	・児童福祉法改正 ・延長・夜間保育の実施
1982		・障害者対策に関する長期計画 ・家庭奉仕員(大幅増員、所得制限撤廃) ・老人保健法
1983	・国連・障害者の十年 ・東京集中	・浄化槽法 ・対がん10カ年総合戦略
1984		・健保法改正(本人9割給付、退職者医療制度) ・雇用保険法改正(再就職手当、高年齢求職者給付金の創設)
1985	・円高	・年金制度改正(基礎年金導入等) ・医療法改正(医療計画) ・職業能力開発促進法 ・労働者派遣法 ・男女雇用機会均等法
1986	・地価高騰	・老人保健法改正(老人保健施設) ・高年齢者等雇用安定法(60歳定年の努力義務化)
1987	・バブル景気	・社会福祉士及び介護福祉士法 ・精神衛生法改正(人権擁護と社会復帰、名称は精神保健法に改称) ・労働基準法改正(週40時間労働制を目標)
1988	・税制改革	・第二次国民健康づくり対策 ・国保法改正(高医療費市町村における運営の安定化)

1989	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改元</li> <li>・合計特殊出生率が 1. 57 となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後天性免疫不全症候群の予防に関する法律</li> <li>・年金制度改正 (完全自動物価スライド制、国民年金基金)</li> <li>・ゴールドプランの策定</li> <li>・雇用保険法改正 (パートへの適用拡大)</li> </ul>
1990	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラク・クウェート侵攻</li> <li>・統一ドイツ誕生</li> <li>・1. 57 ショック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国保法改正 (保険基盤安定制度の確立)</li> <li>・老人福祉等福祉関係 8 法改正 (在宅福祉サービスの位置付けの明確化及びその支援体制の強化、在宅福祉サービス及び施設福祉サービスの市町村への一元化、老人保健福祉計画の策定、障害者関係施設の範囲の拡大等)</li> <li>・高齢者等雇用安定法 (65 歳までの再雇用の努力義務化)</li> </ul>
1991	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湾岸戦争</li> <li>・ソ連邦消滅・ロシア連邦その他の誕生</li> <li>・地価下落始まる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人保健法改正 (老人訪問看護制度)</li> <li>・育児休業法</li> <li>・中小企業労働力確保法</li> </ul>
1992		<ul style="list-style-type: none"> <li>・健保法改正 (中期財政運営の導入)</li> <li>・医療法改正 (医療提供の理念の規定)</li> <li>・看護職員人材確保法</li> </ul>
1993		<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬事法及び医薬品副作用被害救済・研究振興基金法改正 (希少病用医薬品、医療機器の研究開発促進)</li> <li>・福祉用具法</li> <li>・精神保健法改正 (グループホームの法定化)</li> <li>・障害者対策に関する新長期計画</li> <li>・パートタイム労働法</li> <li>・労働基準法改正 (週 40 時間労働制原則化、変形労働制導入)</li> <li>・雇用支援トータルプログラム</li> </ul>
1994	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化率 14%を超える (高齢社会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンゼルプラン (今後の子育て支援のための施策の基本的方向について) (文部, 厚生, 労働, 建設の 4 大臣合意)</li> <li>・緊急保育対策等 5 か年事業 (大蔵, 厚生, 自治の 3 大臣合意)</li> <li>・21 世紀福祉ビジョン</li> <li>・地域保健法 (保健所機能の強化)</li> <li>・健保法等改正 (入院時の食事療養に係る給付の見直し・付添看護の解消)</li> <li>・年金制度改正 (60 歳前半の老齢厚生年金の見直し)</li> <li>・新ゴールドプランの策定</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん克服新 10 か年戦略</li> <li>・高齢者等雇用安定法改正 (60 歳定年義務化、65 歳継続雇用の努力義務化)</li> <li>・雇用保険法改正 (高齢雇用継続給付・育児休業給付創設)</li> <li>・水道原水水質保全事業の実施の促進に関する法律</li> </ul>
1995	・阪神・淡路大震災	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子爆弾被害者に対する援護に関する法律</li> <li>・容器包装リサイクル法</li> <li>・障害者プランの策定</li> <li>・精神保健法改正 (精神障害者保健福祉手帳制度の創設、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律に改称)</li> <li>・育児休業法改正 (介護休業制度創設、名称は育児・介護休業法に改称)</li> <li>・新総合的雇用対策</li> </ul>
1996		<ul style="list-style-type: none"> <li>・らい予防法廃止</li> <li>・薬事法改正 (医薬品安全性確保対策の充実)</li> </ul>
1997	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障構造改革</li> <li>・アジア通貨危機</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物処理法改正 (施設設置手続きの明確化・不法投棄対策等)</li> <li>・精神保健福祉士法</li> <li>・児童福祉法改正 (保育制度改正)</li> <li>・健保法等改正 (本人 8 割給付)</li> <li>・臓器移植法</li> <li>・介護保険法</li> <li>・男女雇用機会均等法改正 (女性に対する差別の禁止等)</li> </ul>
1998	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長野オリンピック</li> <li>・完全失業率の急上昇</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日独社会保障協定署名 (2000 年 2 月 1 日発効)</li> <li>・感染症法</li> <li>・雇用活性化総合プラン</li> </ul>
1999	・国際高齢者年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化対策推進基本方針 (少子化対策推進関係閣僚会議決定)</li> <li>・新エンゼルプラン (重点的に推進すべき少子化対策の具体的実施計画について) (大蔵, 文部, 厚生, 労働, 建設, 自治の 6 大臣合意)</li> <li>・緊急雇用対策</li> <li>・精神保健福祉法改正 (在宅福祉事業にホームヘルプ・ショートステイを追加、医療保護入院の要件の明確化)</li> </ul>
2000		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日英社会保障協定署名 (2001 年 2 月 1 日発効)</li> <li>・年金制度改正 (給付総額の伸びの調整等)</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師法改正(臨床研修の必修化)</li> <li>・社会福祉法</li> <li>・労働契約承継法</li> <li>・児童虐待防止法</li> <li>・児童手当法改正(義務教育就学前まで延長)</li> </ul>
2001	・厚生労働省発足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確定給付企業年金法・確定拠出年金法</li> <li>・ハンセン病補償法</li> <li>・社会保障改革大綱</li> <li>・個別労働関係紛争解決法</li> <li>・育児・介護休業法改正(時間外労働の制限等)</li> <li>・総合雇用対策</li> </ul>
2002		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシェアリングに関する政労使合意</li> <li>・身体障害者補助犬法</li> <li>・薬事法及び採血及び供血あっせん業取締法改正(市販後安全対策の充実等、血液法の抜本改正)</li> <li>・健康増進法</li> <li>・健保法等改正</li> <li>・食品衛生法改正(輸入食品への罰則強化等)</li> <li>・ホームレス自立支援法</li> <li>・雇用問題に関する政労使合意</li> <li>・改革加速プログラム</li> <li>・多様な働き方とワークシェアリングに関する政労使合意</li> </ul>
2003	・イラク戦争	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品衛生法等改正(「食品安全基本法」の成立を踏まえた見直し)</li> <li>・次世代育成支援対策推進法</li> <li>・児童福祉法改正(子育て支援事業の法定化)</li> <li>・母子家庭の母の就業の支援に関する特別措置法</li> <li>・少子化社会対策基本法</li> <li>・心神喪失者等医療観察法</li> <li>・雇用保険法改正(早期再就職の促進)</li> <li>・新障害者プラン</li> <li>・労働基準法改正(解雇ルールの策定、有期契約及び裁量労働制に関する見直し)</li> <li>・感染症法及び検疫法改正(感染症対策の充実強化)</li> </ul>
2004		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども・子育て応援プラン</li> <li>・第3次対がん10か年総合戦略</li> <li>・日韓社会保障協定署名(2005年4月1日発効)</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日米社会保障協定署名(2005年10月1日発効)</li> <li>・特別障害給付金支給法</li> <li>・児童虐待防止法改正(児童虐待の定義の見直し、国及び地方公共団体の責務の改正等)</li> <li>・少子化社会対策大綱</li> <li>・児童手当法改正(小学校第3学年修了前まで延長)</li> <li>・児童福祉法改正(児童相談に関する体制の充実等)</li> <li>・育児・介護休業法改正(休業の対象労働者の拡大等)</li> <li>・水道ビジョン</li> <li>・年金制度改正(保険料水準の上限固定及び給付水準の自動調整の仕組みの導入、年金積立金管理運用独立行政法人の設立等)</li> </ul>
2005	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総人口が初めて減少,</li> <li>出生数(106万人)・合計</li> <li>特殊出生率(1.26)は過去</li> <li>最低に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日ベルギー社会保障協定署名(2007年1月1日発効)</li> <li>・日仏社会保障協定署名(2007年6月1日発効)</li> <li>・食育基本法</li> <li>・労働組合法改正(不当労働行為事件の審査手続・体制の整備)</li> <li>・介護保険法改正(予防重視型システムへの転換等)</li> <li>・障害者自立支援法成立(障害種別にかかわらず一元的にサービスを提供する仕組みの創設等)</li> </ul>
2006		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい少子化対策について</li> <li>・日加社会保障協定署名(2008年3月1日発効)</li> <li>・就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律(認定子ども園の制度化)</li> <li>・薬事法改正(販売制度改正、違法ドラッグ対策の強化)</li> <li>・男女雇用機会均等法改正(性差別禁止の範囲の拡大等)</li> <li>・医療法等改正(良質な医療を提供する体制の確立を図る)</li> <li>・健保法等改正</li> </ul>
2007	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化率 21%を超える</li> <li>(超高齢社会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと家族を応援する日本重点戦略</li> <li>・仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章</li> <li>・仕事と生活の調和推進のための行動指針</li> <li>・日豪社会保障協定署名(2009年1月1日発効)</li> <li>・雇用保険法改正(受給資格要件の見直し)</li> <li>・パートタイム労働法改正(パート労働者の均衡待遇の確保等)</li> <li>・雇用対策法及び地域雇用開発促進法改正(労働者の募集・</li> </ul>

		<p>採用における年齢制限禁止の義務化等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障協定の実施に伴う厚生年金保険法等の特例等に関する法律(各国協定ごとに制定してきた実施特例法に代えてその内容を包括的に定めるもの)</li> <li>・日本年金機構法</li> <li>・国民年金事業等の運営の改善のための国民年金法等の一部を改正する法律</li> <li>・年金時効特例法(年金記録の訂正に係る年金の支給を受ける権利についての時効の特例等)</li> <li>・厚生年金特例法(事業主が被保険者の保険料を源泉控除していたが納付義務の履行が明らかでない場合の厚生年金の保険給付に関する特例等)</li> <li>・児童虐待防止法改正(児童の安全確認等のための立入調査等の強化等)</li> <li>・労働契約法</li> </ul>
2008		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新待機児童ゼロ作戦</li> <li>・新しい少子化社会対策大綱の案の作成方針について</li> <li>・日オランダ社会保障協定署名(2009年3月1日発効)</li> <li>・日チェコ社会保障協定署名(2009年6月1日発効)</li> <li>・新雇用戦略</li> <li>・日スペイン社会保障協定署名(2010年12月1日発効)</li> <li>・労働基準法改正(時間外労働の割増賃金率の引き上げ等)</li> </ul>
2009		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼロから考える少子化対策プロジェクトチームの設置</li> <li>・日イタリア社会保障協定署名</li> <li>・雇用安定・創出の実現に向けた政労使合意</li> <li>・育児・介護休業法改正(短時間勤務制度の義務化等)</li> <li>・延滞金軽減法(社会保険の保険料等に係る延滞金の軽減)</li> <li>・遅延加算金法(年金記録の訂正がなされた上で受給権に係る裁定が行われた場合において本来の支給日より大幅に遅れて支払われる年金給付の額について、その現在価値に見合う額になるようにするため、特別加算金を支給)</li> <li>・国民年金法等の一部を改正する法律等の一部を改正する法律(平成21年度からの基礎年金国庫負担割合2分の1を実施)</li> <li>・臓器の移植に関する法律の一部を改正する法律(脳死判定・臓器摘出要件の変更等)</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日アイルランド社会保障協定署名(2010年12月1日発効)</li> </ul>
2010		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども・子育てビジョン</li> <li>・子ども・子育て新システム検討会議の設置</li> <li>・子ども・子育て新システムの基本制度案要綱</li> <li>・雇用保険法改正(直用範囲の拡大等)</li> <li>・医療保険制度の安定的運営を図るための国民健康保険法等の一部を改正する法律(保険料の引上げ幅を抑制するために必要な財政支援措置等)</li> <li>・日ブラジル社会保障協定署名</li> <li>細川(9月～) 22年 日スイス社会保障協定署名</li> <li>・2010年度における子ども手当の支給に関する法律</li> <li>・障がい者制度改革推進本部等における検討を踏まえて障害保健福祉施策を見直すまでの間において障害者等の地域生活を支援するための関係法律の整備に関する法律</li> <li>⇒本法律では、障害者自立支援法や児童福祉法等が改正され、2011年10月1日から、グループホーム、ケアホームの家賃助成、重度の視覚障害者の同行援護等が、2012年4月1日から、相談支援の充実、障害児支援の強化等が実施される</li> </ul>
2011		<p><b>【177回通常国会・178回臨時国会で成立した法律】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①予防接種法及び新型インフルエンザ予防接種による健康被害の救済等に関する特別措置法の一部を改正する法律</li> <li>⇒病原性の高くない新型インフルエンザが発生した場合の予防接種対応</li> <li>②雇用保険法及び労働保険徴収法の一部を改正する法律</li> <li>⇒失業等給付の充実、保険料率を引き下げ等</li> <li>③職業訓練の実施等による特定求職者の就職の支援に関する法律</li> <li>⇒職業訓練の実施、職業訓練を受けることを容易にするための給付金の支給その他の就職に関する支援措置</li> <li>④障害者基本法の一部を改正する法律</li> <li>⇒総則関係、基本的施策関係、障害者政策委員会等</li> <li>⑤障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律</li> <li>⇒障害者虐待の防止、養護者に対する支援等に関する施策を促進し、もって障害者の権利利益の擁護に資する</li> <li>⑥介護サービスの基盤強化のための介護保険法等の一部を</li> </ul>

		<p>改正する法律</p> <p>⇒医療, 介護, 予防, 住まい, 生活支援サービスが切れ目なく提供される「地域包括ケアシステム」の実現に向けた取組を進める</p> <p>⑦国民年金及び企業年金等による高齢期における所得の確保を支援するための国民年金法等の一部を改正する法律</p> <p>⇒国民年金保険料の納付可能期間を延長することや, 企業型確定拠出年金において加入資格年齢の引上げや加入者の掛金拠出を可能とする等</p> <p>⑧特定非営利活動促進法の一部を改正する法律</p> <p>⇒第3の認定制度・仮認定制度の導入に伴って, この法律で講じている措置の概要に関する記述に, 「運営組織及び事業活動が適正であって公益の増進に資する特定非営利活動法人の認定に係る制度を設けること」を加える</p> <p>⑨2011年度における子ども手当の支給等に関する特別措置法</p> <p>⇒2012年度からの恒久的な子どものための金銭の給付の制度に円滑に, 移行できるよう, 2011年度における子ども手当の支給等について必要な事項を定める</p> <p>⑩高齢者の居住の安定確保に関する法律等の一部を改正する法律</p> <p>⇒高齢者の居住の安定を確保するため, バリアフリー構造等を有し, 介護・医療と連携して, 高齢者を支援するサービスを提供する「サービス付き高齢者向け住宅」の登録制度の創設等を行う</p> <p>⑪民法等の一部を改正する法律</p> <p>⇒児童虐待の防止等を図り, 児童の権利利益を擁護する観点から, 親権の停止制度を新設し, 法人又は複数の未成年後見人の選任を認める等の改正を行うとともに, 関連する規定について所要の整備を行う</p> <p><b>【社会的養護に関する施策】</b></p> <p>①当面の各種実施要綱改正による運営の弾力化</p> <p>⇒小規模グループケアの定員要件の弾力化, 地域小規模児童養護施設の設置要件の弾力化等。自立援助ホームの運営の安定化等</p>
--	--	---

		<p>②里親委託ガイドラインの策定，里親委託運営要綱の改正 ⇒里親委託優先の原則を明示。里親委託を推進するため，里親委託の運営方法についての留意事項を整理。里親認定の要件，手続き等をわかりやすく整理</p> <p>③児童福祉施設最低基準の当面の改正 ⇒家庭支援専門相談員，個別対応職員，心理療法担当職員の配置の義務化。居室面積の引上げ，居室定員の引下げ</p> <p>④「社会的養護の課題と将来像」とりまとめ ⇒児童養護施設等の社会的養護の課題に関する検討委員会。社会保障審議会児童部会社会的養護専門委員会</p> <p>⑤(7/19)子どもシェルター(※)に自立援助ホームを適用して補助対象とする通知改正 ※虐待を受けた児童等の緊急の避難先として行う事業</p> <p>⑥「子ども虐待による死亡事例等の検証結果(第7次報告概要)および児童虐待相談対応件数等」</p> <p>⑦妊娠期からの妊娠・出産・子育て等に係る相談体制等の整備について通知 ⇒新生児の虐待死亡事例，遺棄等の防止のために，妊娠に悩む人からの相談に対し，各相談機関等が連携して対応するとともに，社会的養護の支援制度について周知し，必要とする人への的確な情報提供と活用促進を図る</p> <p>⑧社会的養護の課題と将来像」に基づく当面の児童福祉施設最低基準等の改正 ⇒(1)施設長の資格要件の最低基準への規定及び施設長研修の義務化 (2)社会的養護の施設の第三者評価の義務化 (3)親族里親の要件の見直し (おじ・おばに養育里親として里親手当を支給) (4)自立援助ホーム及び母子生活支援施設の位置情報の提供方法の見直し</p> <p>⑨2012年度厚生労働省予算の概算要求 ⇒家庭的養護の推進・被虐待児童等への支援の充実・要保護児童の自立支援の充実(自立援助ホームの設置推進等)</p>
--	--	---